

社説

若

徴を生かし、人口減少の克服と地方創生を進めていく内容だ。

地方創生で政府は、地方に人仕事を呼び込む戦略を、地方自らが主体的に企画立案し、それを支援していく考えだ。

政府は地方自治体に本年度中の戦略策定を求めている。地域固有の資源や特性を生かそうという同市の考え方は、策定を急ぐ他の市町村が独自性のある地方創生の戦

最大限に資源や特性生かせ

への支援策など同じような取り組みに頼らざるを得なかった。

同市では一時期、半導体製造関連企業の集積が進んだ。しかしリーマンショックなどで製造拠点の海外移転や関連企業の工場閉鎖などが相次ぎ、地元雇用の受け皿の規模が縮小したままだ。

をつくり出す技術を生み出している。市は会津大と連携してこの分野の人材育成を進め、新しい人の流れをつくりたい考えだ。

裏を返せば、戦略が軌道に乗ったとしても人口が増加に転じような楽観的な見方はできないほど人口減少が進むということだ。

小島教授(大福医)が医学賞

泌尿器医療発展に貢献



小島祥敬教授

福島医大は15日、医学部泌尿器科学講座の小島祥敬教授(45)が、日本の泌尿器科医学の発展に貢献した専

門家に贈られる「鈴木金治泌尿器医学賞」に選ばれたと発表した。同賞の授与式は18日に金沢市で開かれる第103回日本泌尿器科学会総会の開会式で行われる。同賞は鈴木泌尿器医学振興財団が同学会員の中から

一人選ぶ。同大によると、小島教授が若くして泌尿器科学講座の教授となつてロボット支援手術や男子不妊症診療、小児泌尿器科診療など最先端の医療に取り組んでいることや、震災、原発事故の影響が続く本県に名古屋市立大から赴任し奮



内堀知事に要望書を手渡し、整備促進を求める目黒町長(中央)と国定市長(右)

闘していることが評価された。小島教授は「受賞を励みに、福島県の医療のさらなる発展に微力ながら貢献できると精進したい」とのコメントを出した。

国道289号の八十里越知事に整備促進要望書 只見町と新潟県三条市を結ぶ国道289号で不通区間となっている八十里越(延長20・8キロ)の全線開通に向け、国道289号八十里越地点開発促進期成同

盟会(会長・国定勇人三条市長)は15日、内堀雅雄知事に、新潟県側の仮設道路を一般車両が暫定的に通行できるように要望した。仮設道路の利用には、福島、新潟両県境で施工中の二つのトンネルと橋の完成

表彰式、受賞者による座談会を一般公開します(入場無料、整理券必要)。

日時 5月20日午後1時30分

場所 福島市こむろわいわいホール

座談会 「ふくしまを元気にするため」

整理券(全席自由) 往復はがきに住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、郵便番号960-8648(住所不要) 福島民友新聞社編集局「みんゆう県民大賞」係へ。定員になり次第締め切る。

問い合わせ 福島民友新聞社編集局庶務部(電話024・523・1435)

働き方改善ない

中堅官僚が調

長時間労働解消に取り組まない」と回答。中央省庁の中堅官僚が

来月21日尾瀨山開き

開き 尾瀨 小屋 と新 開催